

令和6年度 学校評価アンケート結果 (下半期)

★

【総合判定】 A: 肯定率の平均が90%以上
 B: 肯定率の平均が60%以上90%未満
 C: 肯定率の平均が60%未満

※ 肯定率とは、評定(%)の評
 定4と評定3の合計値です。

【評定】 4:とても思う(あてはまる)
 3:やや思う(あてはまる)
 2:あまり思わない(あてはまらない)
 1:全く思わない(あてはまらない)

松山市評価項目	項目	番号	対象	設問	総合判定	肯定率	評定(%)				評定平均	概要・課題	◆改善策
							4	3	2	1			
学校は、松山の授業モデルをもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	1	保護者	教職員	学校は、よく分かる授業を行い、基礎的・基本的な学力とともに考える力を身に付けてくれている。	A	94%	41%	53%	5%	1%	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ◆「えひめ学びのふり返し10のチェックリスト」を活用した授業の振り返りを行い、教師自身の課題を明確にすると共に、具体的な改善に向けた研修や共通理解を図る。 ◆「あいあいタイム」を行う際に、授業や単元の中での位置づけをはっきりとさせ、話し合う内容や話合いのゴールが明確になるよう板書等で示した上で取り組ませるなど、「あいあいタイム」の持ち方を工夫する。 	
				授業では、めあての提示や振り返りを行い、一人一人によく分かる学習指導を行っている。		95%	59%	36%	0%	5%	3.5		
				あなたは、授業の内容がよく分かりますか。		90%	54%	36%	9%	1%	3.4		
		2	保護者	教職員	あなたは、授業の内容がよく分かりますか。	A	100%	59%	41%	0%	0%		3.6
					授業では、対話や学び合いを日常化し、主体性や自ら考える力を高めようとしている。		93%	60%	33%	5%	2%		3.5
					あなたは、進んで互いの考えを伝え合ったり聴き合ったりして、友達と学び合いながら学習に取り組んでいますか。								
3	保護者	教職員	学校は、タブレット端末とノートやプリント等をうまく活用して、児童の興味を引き出している。	A	88%	41%	47%	11%	1%	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ◆アプリケーションやICT支援員などの活用について、他校の事例や活用実践を参考にしながら有効な活用を図る。 ◆教職員のICT活用スキルを向上をさせ、デジタルとアナログのベストミックスができるようにする。 		
			学校は、教科等の指導においてアナログとデジタルそれぞれのよさを適切に生かした授業改善に取り組んでいる。		100%	64%	36%	0%	0%	3.6			
			あなたは、様々な活動やタブレット端末の活用などを通して、よく分かり楽しい学習ができましたか。		96%	71%	25%	4%	1%	3.7			
4	保護者	教職員	お子さんは、自ら家庭学習や読書に取り組んでいる。	B	55%	16%	39%	38%	7%	2.6		<ul style="list-style-type: none"> ◆1学期に配布した家庭学習の手引きを基に、学習時間や取り組み方を児童と確認する。 ◆読書活動や自主学習など、意欲的に取り組んでいる児童のみきゅん通帳やノートを学級等で掲示物やロイロノート等で紹介し、取り組み方のモデルとする。 ◆児童の家庭学習での頑張りを朱書きや声掛け等で認めていくことで、自ら取り組んでいけるよう支援する。 ◆テスト等の結果を基に、児童が自信を持って学習に臨めるような、一人一人の学習状況に合わせ、デジタル教材やプリント等を用いた個別指導を行い、学習意欲が高まるようにする。 	
			学校は、学力調査や評価テスト等の結果に基づき、個人や学級の課題を把握し、指導の改善を図っている。		92%	55%	37%	4%	4%	3.4			
			あなたは、進んで家庭学習や読書に取り組んでいますか。		84%	45%	39%	13%	3%	3.3			
5	保護者	教職員	お子さんは、自ら体を動かし、体力を高めようとしている。	B	76%	39%	37%	22%	2%	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ◆マラソン大会などの体育的行事については継続して行う。 ◆なわとびやITスタジアムに年間を通じて取り組めるよう計画・運営を行う。 ◆委員会等の活動で、外遊びを奨励したり、体力を高める運動を紹介したりしていく。 ◆休み時間の体育館開放を計画し、気軽に運動できる環境を整える。 		
			学校は、新体力テスト等の結果を踏まえ、体育科や縦割り班活動などで、体力及び身体機能の向上を図っている。		92%	37%	55%	4%	4%	3.3			
			あなたは、進んで体を動かし、体力を高めようとしていますか。		87%	67%	20%	11%	3%	3.5			
6	保護者	教職員	学校は、地域に根ざした教育を行い、郷土を大切に思う児童生徒の育成に努めている。	A	95%	49%	46%	5%	0%	3.4		<ul style="list-style-type: none"> ◆今後も、総合的な学習の時間や生活科等での地域との関わりを大切に学習を行い、地域の方々との連携を密にし、児童が「ふるさと窪田」の良さを実感できるような単元構成を工夫するために、単元計画や評価の見直しを図る。 	
			学校は、地域に根ざした教育を行い、郷土を大切に思う児童生徒の育成に努めている。		96%	82%	14%	4%	0%	3.8			
			あなたは、「窪田の地域」を大切に思っていますか。		96%	82%	14%	4%	1%	3.8			

確かな学力の定着と向上

学校は、児童生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。

【総合判定】 A:肯定率の平均が90%以上
 B:肯定率の平均が60%以上90%未満
 C:肯定率の平均が60%未満

※ 肯定率とは、評定(%)の評
 定4と評定3の合計値です。

【評定】 4:とても思う(あてはまる)
 3:やや思う(あてはまる)
 2:あまり思わない(あてはまらない)
 1:全く思わない(あてはまらない)

松山市評価項目	項目	番号	対象	設問	総合判定	肯定率	評定(%)				評定平均	概要・課題	◆改善策		
							4	3	2	1					
学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	豊かな心の育成	7	保護者	学校は、いじめ・不登校等に対し、保護者の相談に真摯に対応し、問題の解決に努力している。	A	90%	36%	54%	9%	1%	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、教職員、児童共に概ね肯定的な意見であるが、保護者、児童の中に、1割程いじめ、不登校対策に不満を抱いている方もいる。児童にも安心して学校に通うことができる学校になるように学級担任を中心として、児童に寄り添った関わりができるようにしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆来年度も引き続き、「くぼたっ子こころのアンケート」を実施し、そのアンケートを基に、学級担任が一人一人と面談し、児童の悩みや不安を聞く時間を設ける。児童に寄り添った関わりをしていくことで、学級担任との信頼関係が構築され、安心して学校に通うことができるようにする。 ◆カウンセラーなどの積極的な活用を行い、児童の悩みや不安を聞く時間を設ける。 ◆規律を大切に、互いを思いやる心情を育て、安心して学級で過ごせる学級づくりに努める。 		
			教職員	学校は、いじめや差別を許さない意識や、正しいと思うことを勇気を出して行う児童を育てている。		100%	64%	36%	0%	0%	3.6				
			児童	あなたは、学校や学級で安心して過ごせていますか。		91%	70%	21%	6%	2%	3.6				
		8	保護者	0		A									
			教職員	0											
			児童	あなたは、いじめや差別を許さない気持ちを持ち、正しいことを進んで行っていますか。	96%		77%	19%	2%	2%	3.7				
学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童生徒の実態に応じた適切な指導を行っている。	9	保護者	お子さんは、安心して学校に通い、楽しく学校生活を送っている。	A	94%	64%	30%	5%	1%	3.6	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、教職員、児童共に概ね肯定的な意見である。しかし、学校へ不安を抱え、安心出来ない児童が数名いることも分かる。児童全員が安心して通うことができる学校を目指していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆家庭訪問や学級懇談会、個別懇談・電話対応など保護者の方と話す機会を活用して、児童の家庭での様子を聞き取ることで、児童の今抱えている不安や悩みをいち早く気づき、児童に寄り添った対応をしていけるよう努める。 ◆教員に相談しにくい内容は、他機関との連携を図り、児童がどこにでも相談できる窓口を増やしていく。 ◆来年度も6年生に生活目標を考えさせる。そうすることで目標を守ろうとする児童を増やし、よりよい学校になるようにと考える児童を増やしていく。 			
		教職員	学校は、児童と共に決まりや約束などの見直しを行い、自らよりよい学校をつくっていくとする意識や態度を育てている。		96%	46%	50%	4%	0%	3.4					
		児童	あなたは、決まりや約束を守って、よりよい学校や学級になるよう頑張っていますか。		96%	64%	32%	2%	2%	3.6					
学校は、将来に夢を持ち、自分の進路や生き方について考える児童生徒を育てている。	キャリア教育	10	保護者	お子さんは、夢やめあてを持ち、その実現に向けて元気に生活している。	A	81%	34%	47%	17%	2%	3.1	<ul style="list-style-type: none"> 大半の児童が夢やめあてに向かって元気に活動することができていると感じている。しかし、児童が夢やめあてをもって頑張ろうとする前向きな姿や学校としての取組について、十分に伝わっていないと考える保護者もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆キャリアパスポートを活用しながら児童と面談を行ったり、個別懇談の中で話をしたりする。 ◆学期に1回は、係や当番活動の様子、夢やめあてに向かって頑張る姿をホームページや学年便りで発信する。 ◆学級懇談会の際には、児童が立てた小さなめあてや夢に向かって頑張っている行動などを紹介し、キャリア教育について一緒に考えていく時間も設けていく。 		
			教職員	学校は、将来の夢や生き方について希望をもって考える児童を育てている。		100%	41%	59%	0%	0%	3.4				
			児童	あなたは、夢やめあてに向かって元気に活動していますか。		94%	76%	18%	4%	2%	3.7				
学校は、児童生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	11	保護者	学校は、交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	A	99%	53%	46%	1%	0%	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 概ね安全には気を付けているようであり、保護者・教職員・児童共に肯定的な評価となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆保健室にけがで来室した児童へけがをした場所や原因を聞き取りし、危ない行動をしている場合は、大きなけがにならないように指導する。 ◆校内の危険箇所を発見した際は、すぐに対応するようにし、児童が安全に過ごせるようにする。 			
		教職員	学校は、児童に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。		100%	77%	23%	0%	0%	3.8					
		児童	あなたは、自分と周りの人の命と安全を守るよう気を付けて生活できていますか。		97%	81%	16%	2%	1%	3.8					
学校は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童生徒の健康保持・増進に努めている。	健全な体の育成	12	保護者	お子さんは、「早寝・早起き・朝ごはん」の合言葉を守った生活ができている。	B	79%	34%	45%	18%	3%	3.1	<ul style="list-style-type: none"> 教職員と保護者・児童に肯定的な評価に差がみられる。学校が今以上に児童への生活習慣改善の指導・啓発が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校の意識と児童・保護者の意識に差があるため、今後も生活習慣について指導していく必要がある。 ◆学年だよりや保健だより等で定期的に生活習慣について啓発する。 		
			教職員	学校は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童生徒の健康保持・増進に努めている。		100%	77%	23%	0%	0%	3.8				
			児童	あなたは、「早寝・早起き・朝ごはん」の合言葉を守って生活できていますか。		82%	45%	37%	13%	5%	3.2				
		13	保護者	お子さんは、家庭でタブレットなどのインターネットに接続できる機器を正しく使っている。	B	82%	37%	45%	17%	1%	3.2			<ul style="list-style-type: none"> 児童と保護者・教職員の肯定率の差がやや開いている。情報モラルの形成を図っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆学級活動、道徳科の学習を中心にして、情報モラルの形成を行っていく。 ◆年度初めに「タブレット利用のルール」や「よりよい活用リーフレット」を配付し、学習用端末の適切な活用方法を確認する。また、学期に1回は内容を確認する機会を設ける。 ◆えひめっこ情報リテラシーアプリを活用して、児童のICTスキルを高める。
			教職員	学校は、インターネット等の適切な使い方を指導し、情報モラルや望ましい生活習慣の形成に努めている。		86%	36%	50%	13%	0%	3.2				
			児童	あなたは、タブレットなどのインターネットに接続できる機器を正しく使っていますか。		97%	78%	19%	2%	1%	3.7				
学校は、換気や手指衛生などの基本的な感染症対策を行っている。	14	保護者	学校は、換気や手指衛生などの感染症対策を含む、基本的な取組を適切に行っている。	A	96%	37%	59%	4%	0%	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的な評価が多いが、児童の中には否定的な評価が見られる。教職員主導ではなく、児童が自ら感染対策を行うようにしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆児童に肯定的な評価が多いため、児童主体で感染対策ができるようにする。 ◆年間通じて感染症が流行しているため、毎学期行う身体計測の時間を活用して、感染対策の必要性を全校児童に指導していく。 			
		教職員	学校は、換気や手指衛生などの基本的な感染症対策を行っている。		100%	36%	64%	0%	0%	3.4					
		児童	あなたは、健康を守るために、しっかり手洗いやうがいなどができていますか。		91%	60%	31%	5%	3%	3.5					

【総合判定】 A:肯定率の平均が90%以上
 B:肯定率の平均が60%以上90%未満
 C:肯定率の平均が60%未満

※ 肯定率とは、評定(%)の評
 定4と評定3の合計値です。

【評定】 4:とても思う(あてはまる)
 3:やや思う(あてはまる)
 2:あまり思わない(あてはまらない)
 1:全く思わない(あてはまらない)

松山市評価項目	項目	番号	対象	設問	総合判定	肯定率	評定(%)				評定平均	概要・課題	◆改善策					
							4	3	2	1								
学校は、特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	特別支援教育	15	保護者	学校は、児童一人一人の特性や能力に応じた配慮や指導を適切に行っている。	A	90%	34%	56%	9%	1%	3.2	◆ホームページや学校だより、学年だよりなどで、特別支援学級の活動の様子や、通常の学級で特別支援教育の視点に立って行っている活動の様子を紹介する頻度を高め、保護者の特別支援教育認識の機会を増やす。 ◆教職員同士で特別支援教育への認識・共通理解をより強固にするために校内研修を実施する。						
			教職員	学校は、特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。									100%	73%	27%	0%	0%	3.7
			児童	0														
学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。	組織・運営	16	保護者	学校は、相談事等に対し、一致協力して素早く対応してくれている。	A	93%	42%	51%	6%	1%	3.3	◆来年度も相談事には全校で素早く対応できるような組織づくりを充実させるとともに、事例に合わせて窓口や対応者を決定していく。 ◆特に、いじめ等の困り事には、即日対応できるよう、様々な機関と連携を図るとともに、教職員の研修もしっかりと行う。						
			教職員	学校は、管理職や学年主任等を中心として、組織的かつ迅速な対応を行っている。									100%	59%	41%	0%	0%	3.6
			児童	0														
学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応に向けて、積極的に研修に取り組んでいる。	研修	17	保護者	学校は、様々な今日的な課題（情報モラル・SDGsなど）を含む教育活動を工夫して実施している。	A	93%	32%	61%	7%	0%	3.3	◆本校が研究の中心としている「あいあいタイム」の研究を進めるとともに、教師同士が和気あいあいとした雰囲気の中で研修を進められるよう、研修主任が中心となり、情報交換や意見交流等ができる場を設定する。 ◆情報モラルなど、日頃の活動の中で児童に発信しているように、研修の機会を設けたり教職員が意識が高められるような情報交換の場を設定したりする。 ◆情報モラルやSDGsなどの今日的な課題について情報発信していける場の一つとしてPTA学級の活用を模索する。						
			教職員	学校は、子供たち一人一人がよく分かる授業づくりや個別最適な支援に向けて、積極的に研修に取り組んでいる。									100%	59%	41%	0%	0%	3.6
			児童	0														
学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	保護者・地域との連携・情報	18	保護者	学校は、教育活動をより充実させるために、地域や保護者と連携・協力している。	A	96%	51%	45%	3%	1%	3.5	◆今後も、地域の方との連携を重視しながら学習活動を実践していく。 ◆様々な媒体を活用して、学校や学年、学級の情報発信に努めていく。						
			教職員	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。									100%	86%	14%	0%	0%	3.9
			児童	0														
学校は、学校・学年だよりやホームページ、配信システム等により、積極的に情報を発信している。	保護者・地域との連携・情報	19	保護者	学校は、学校・学年だよりやホームページ、配信システム等により、教育活動の様子をよく伝えている。	A	95%	57%	38%	4%	1%	3.5	◆今後も、地域の方との連携を重視しながら学習活動を実践していく。 ◆様々な媒体を活用して、学校や学年、学級の情報発信に努めていく。						
			教職員	学校は、学校・学年だよりやホームページ、配信システム等を通して、積極的に情報を発信している。									100%	68%	32%	0%	0%	3.7
			児童	0														
学校は、言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努めている。	教育環境整備	20	保護者	学校は、保護者などの来訪者にも子供の活動の様子がよく分かる展掲示に努めていると感じる。	A	94%	51%	43%	5%	1%	3.4	◆来年度も全教職員で言語活動の充実や展掲示の工夫に努め、今後も動く掲示物を意識して、環境整備に努める。 ◆展掲示担当者や掲示委員会担当者が連携し、校内の展掲示を更に活性化していくよう努める。 ◆個人情報に関わるような掲示に配慮し、児童が安心して生活できる環境を整える。						
			教職員	学校は、言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努めている。									100%	50%	50%	0%	0%	3.5
			児童	あなたは、学校や学級の掲示が、見て楽しくよく分かるものになっていると感じますか。(6年・11月のみ)														
学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童生徒の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	幼保小中連携	21	保護者	学校は、幼稚園・保育園、中学校とよく連携し、入学や進学に向けての適切な説明・対応を行っている。	A	90%	38%	52%	9%	1%	3.3	◆近隣幼保小中などから授業参観の機会があった場合には、積極的な参加を促し、更なる近隣校や中学校との連携を図る。 ◆スタートカリキュラムや交流、授業参観などの計画を連携する幼稚園等とともに作成することで、幼保小連携の強化を図る。						
			教職員	学校は、各園、小中学校との交流や連携を通して、小1プロブレムや中1ギャップの解決を図っている。									87%	14%	73%	13%	0%	3.0
			児童	あなたは、オープンスクールなどを通して、中学校進学への意欲や希望が高まりましたか。(6年・11月のみ)														
		22	保護者	学校は、幼稚園・保育園・中学校等とよく連携し、子供理解に努め、幼少中のつながりのある学習指導を行っている。	B	85%	28%	57%	13%	2%	3.1							
			教職員	学校は、各園、小中学校の保育・授業参観等を通して、教職員同士の相互理解を図り、指導の連続性や課題の共有に努めている。									82%	32%	50%	14%	4%	3.1
			児童	0														